

# 2003 神戸学院大学 Green Festival

第196回

10月6日(月) 16:30開演

●パンソリ — 韓国芸能の世界

曹小女(韓国重要無形文化財指定)/

曹英子/曹龍福

演目/『春香伝』

第197回

10月25日(土) 15:00開演

●新エクシモン弦楽四重奏団 コンサート

ヴァイオリン/前澤均 梅澤美保子

ヴィオラ/梯孝則 チェロ/平野秀清

第198回

11月1日(土) 15:00開演

●多田羅迪夫 バス=バリトン・リサイタル

ピアノ/鈴木真理子

第199回

11月8日(土) 15:00開演

●長谷川陽子 チェロ・リサイタル

ピアノ/寺嶋陸也

第200回記念公演

11月29日(土) 15:00開演

●緑川まり(ソプラノ) ジョイント・リサイタル  
市原多朗(テノール)

ピアノ/森島英子

第201回

12月7日(日) 15:00開演

●神戸学院大学管弦楽団 第9回定期演奏会

指揮/松井隆司 ヴァイオリン/栄嶋道広

第202回

12月9日(火) 16:30開演

●朗読&独りステージ

古賀かつゆき・西脇しず江/宮本秀彦

演目/『天マデトドケ』他

第203回

12月13日(土) 15:00開演

●風呂本佳苗 ピアノ・リサイタル

第204回

12月24日(水) 16:30開演

●劇団 太陽族公演

作・演出/岩崎正裕

演目/『新作(タイトル未定)』

関西から

文化力  
POWER OF  
CULTURE



●入場無料

会場/神戸学院大学メモリアルホール(9号館)

主催/神戸学院大学

後援/兵庫県・(財)神戸市民文化振興財団

参加/関西元気文化圏

インターネットホームページ <http://www.kobegakuin.ac.jp/>

神戸学院大学イベント情報

●お申込方法 ◎官製往復ハガキを使用してください。申込者多数の場合は抽選になります。

・往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。

・返信表面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

・返信裏面は空白のままにお願いします。

・1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。

・受付期間は各公演の1カ月前~2週間前(必着)です。

・学齢期に達していないお子さまの申込および入場はできません。

●お申込み・お問い合わせ先

〒651-2180 (郵便番号のみで到着します)

神戸学院大学グリーンフェスティバル係 電話078-974-1607

●交通経路と所要時間

①JR「明石」駅より「神戸学院大学行」バスに乘車(約20分)

②神戸市営地下鉄「伊川谷」駅より「神戸学院大学行」バスに乘車(約15分)

③JR「朝霧」駅より「神陵台行」バスに乘車、終下車後徒歩約12分

※お車でのご来場は固くお断りいたします。

**パンソリ「春香伝」－韓国芸能の世界**

●出演 ●曹小女(韓国重要無形文化財指定)／曹英子／曹龍福

パンソリとは、韓国に残る伝統的な語り芸です。日本の文楽の浄瑠璃語り、あるいは浪曲にスタイルが似ています。しかし、太鼓の伴奏との掛け合いで演じられるパンソリは、もっと動きやシグサが豊富で、ダイナミックな印象を受けます。なにより鍛えられた声の力に圧倒されます。演目は『春香伝』。春香という女性の波乱万丈の人生を描いた、韓国では知らない人などいない有名な物語です。あわせて韓国民謡も紹介します。字幕も準備しました。この機会に韓国芸能の世界へ足を踏み入れてください。

**新エクシモン弦楽四重奏団 コンサート**

●曲目 ●ベートーヴェン……弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 作品18-2  
●モーツァルト……弦楽四重奏曲 第17番 変ロ長調 K.458「狩」  
●シューベルト……弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D.810「死と乙女」

久しぶりに弦楽四重奏の会です。4人有名な門NHK交響楽団についてこの間まで在籍されていた、あるいは今も在籍中の方ばかりで、四重奏の活動は現在のメンバーとなってもう10年になるという名熟の団体。室内楽の原点といわれる弦楽四重奏の密度の高い表現をお楽しみください。室内楽の中でも「濛い」という印象のあるジャンルですが、大作曲家三人の名曲が並び、特にモーツァルトとシューベルトはこのジャンルで極めてポピュラーなものです。

**多田羅迪夫 バス＝バリトン・リサイタル**

●曲目 ●ブラームス……4つの厳肅な歌 作品121  
●シューマン……アイヒェンドルフによるリーダークライス 作品39  
●マーラー……リュッケルトによる5つの歌

東京芸大のご出身。西ドイツのオペラハウス専属として活躍された経歴があり、現代日本を代表するバス＝バリトン歌手、リート歌手としても定評がありますが、今回はこのジャンルからの名曲が揃いました。ドイツ・リート、ことにロマン派のそれを愛好される方にはこたえられないプログラムです。ドイツ・ロマンティシズムのあの深味のある低音での表現…想像するだけでワクワクの会。お相手は同じく芸大のご出身で、歌もののアンサンブルに定評のある鈴木さん。お二人ともフェスティバル初登場です。

**長谷川陽子 チェロ・リサイタル**

●曲目 ●プロコフィエフ……チェロとピアノのためのソナタ 八長調 作品119  
●チャイコフスキー……アンダンテ・カンタービレ(「弦楽四重奏曲 第1番」より)  
●プロコフィエフ……行進曲(歌劇「3つのオレンジへの恋」より)  
●ラフマニノフ……チェロとピアノのためのソナタ ト短調 作品19

レジデント・アーティストの陽子さんがお好みのソナタをあるテーマにまとめて披露してくださる企画の2回目。昨年の「フランスもの」に続いて、今回は「ロシアもの」。代表的なソナタを前後に配し、中に極めてポピュラーな小品2曲を挟んだ魅力的なプログラム。いずれも陽子さんが再々手がけておられる名曲ですが、ソナタ2曲は彼女にとってフェスティバルでは初披露。お相手は久々に2回目の登場の寺嶋さんで、作出されるピアニストとして野平一郎さんと並ぶ存在です。

**緑川まり(ソプラノ)、市原多朗(テノール) ジョイント・リサイタル**

●曲目 ●スカルラッチィ……ガンジス川より太陽が昇り  
●ヘンデル……私を泣かせてください／オンブラ・マイ・フ  
●マルティニ……愛の喜び  
●ガスタルドン……禁じられた音楽  
●ドナウディ……私を愛する人の  
●カルディッロ……カタリ・カタリ  
●レオンカヴァッロ……朝の歌  
●ヴェルディ……乾杯の歌(椿姫)／ああ、父の手は(マクベス)／  
私はここにいるぞ～ああ、なんと快いおののきが(仮面舞踏会)  
●チレア……私は神の卑しいしもべです(アドリアーナ・ルクヴルール)  
●プッチーニ……星も光りぬ(トスカ)／歌に生き、恋に生き(トスカ)

皆様の絶大なご支援で、グリーン・フェスティバルも200回という節目を迎えることになりました。記念公演として、それぞれの声域で日本最高峰と言える名歌手お二人にご登場いただきます。曲目も多彩で、ポピュラーなものをたっぷり組んでくださいました。前半はオペラ・アリアもありますが、歌曲的なものを配し、後半はイタリア・オペラの名アリアと二重唱で満場を沸かせます。お相手は歌もののアンサンブルで定評のある森島さんが2回目の登場です。

**神戸学院大学管弦楽団 第9回定期演奏会**

●曲目 ●ベートーヴェン……序曲「コリオラン」 作品62  
●モーツァルト……ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K.216  
●ドヴォルザーク……交響曲 第9番 ホ短調 作品95 「新世界より」

グリーン・フェスティバルは大学での雇いであるという特色を出すために、長年春季に吹奏楽部に出演を要請してきましたが、小規模ながらオーケストラとしての活動を地道に続けてきた管弦楽団が毎年12月に行ってきた定期演奏会をフェスティバルに組み入れることにいたしました。伝統が浅いため未熟なところは多くありますが、欠点を熱意で補おうとする彼らに温かいご支援をお願いします。指揮は初回この曲が指導くださっている松井先生です。

**朗読&独りステージ『天マデトドケ』**

●出演 ●古賀かつゆき・西脇しず江／宮本秀彦

独りステージ『天マデトドケ』は、亡くなった子どもが「宮沢賢治の<雨ニモマケズ>を歌にしてちょうだい」と言った最後の願いを、その父親がかねるまでの音楽物語。簡素で素朴な舞台づくりだからこそ、せつない心情がにじみでる佳作です。宮本秀彦氏の楽曲とヴァイオリンの美しい音色とともにじっくりと味わってください。また関西でも朗読の名手と知られる古賀・西脇氏お二人による朗読もお楽しみください。朗読の魅力をあらためて確認することができるはず。

**風呂本佳苗 ピアノ・リサイタル**

●曲目 ●ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第32番 八短調 作品111  
●ベートーヴェン……リスト……交響曲 第5番 八短調 作品67

在住されているイギリスを中心に活躍されている風呂本さんは4回目の登場ですが、前2回が室内楽でしたので、ソロ・リサイタルは久しぶりです。今回はちょっと毛色変わったものをという当方の提案を快く受け入れてくださいました。リストはピアノの名手でしたから、他の作曲家の種々の作品をピアノ版に編曲する仕事をたくさん手がけ、その代表がベートーヴェンの交響曲を扱ったものです。余りにも有名な曲がピアノで弾かれると、思わぬ魅力を感じられるのではないのでしょうか。前半はベートーヴェンのピアノ曲の最高峰、「八短調」でまとめたプログラムです。

**劇団 太陽族公演『新作(タイトル未定)』**

●作・演出 ●岩崎正裕

太陽族は1982年以来、主に関西を拠点に、東京・名古屋をはじめとする各地で積極的な公演活動を行っている劇団です。社会で起こる事件や現象をモチーフに骨太なドラマ作りを目指しながら、同時に小さな世界の微細な人間関係のゆがみを緻密に描写する作風で、小劇場演劇界の先頭を走り続けています。今回は岩崎正裕氏の新作、しかも中劇場を使用したグリーンフェスティバル特別バージョンでの上演になります。ご期待ください。